

ポイント

1 歴史的仮名遣いについて

古典で用いられる歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すルールをおさえる。

(1) 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」 → 「わ・い・う・え・お」

例 ころほひ ↓ ころおい にはか ↓ にか

※ 語頭にある「は・ひ・ふ・へ・ほ」は直さずそのままにする。

例 はな ↓ はな ほとり ↓ ほとり

※ 助詞の「は」「へ」はそのままにする。

(2) ゐ・ゑ・を ↓ い・え・お

例 ゐのしし ↓ いのしし をのこ ↓ おのこ

※ 助詞の「を」はそのままにする。

例 月を見しかな ↓ つきをみしかな

(3) ぢ・づ ↓ じ・ず

例 ぢしん ↓ じしん

(4) くわ・ぐわ ↓ か・が

例 くわし ↓ かし

(5) ゑ ↓ お

例 かうし (kaushi) ↓ こうし (koshi)

(6) ゑ ↓ ゑ

例 ゑん ↓ ゑん

例 なむ ↓ なん

2 現代語と意味の異なる古語

古文では、現代語と違った意味で用いられる言葉がある。

・あはれ … 現かわいそうだ / 固しみじみとした趣がある

・あからさま… 現はっきりわかる / 固ちよつと・急に・全く

・あさまし … 現さかしい・下品だ / 固意外だ・情けない

・あやし … 現おかしい / 固粗末だ・見苦しい・不思議だ・身分が低い

・ありがたし… 現感謝すべきだ / 固めつたにない

・いたづら … 現いたづら / 固暇だ・無益だ

・うつくし … 現美しい / 固かわいらしい

・おどろく … 現びっくりする / 固目が覚める

・かなし … 現悲しい / 固いとしい

・さうざうし… 現にぎやかだ / 固物足りない

・すさまじ … 現程度が甚だしい / 固殺風景だ

・はづかし … 現恥ずかしい / 固優れている

・むつかし … 現難しい / 固不快だ・迷惑だ

・めでたし … 現祝うべきである / 固すばらしい

・やがて … 現そのうちに / 固そのまま・すぐに

・わろし … 現悪い / 固みっともない

・をかし … 現おもしろい / 固風情や趣がある

学習のねらい

- ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに改める際のみまりを知る。
- ・現代語と意味の異なる古語をおさえる。

演習問題 A

1 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

古文 いまはむかし、たけとりの翁おきなといふものありけり。野山にまじりて竹をとりつつ、よろづのことにつかひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

(竹取物語より)

現代語訳 今となつては昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野山に分け入つて竹を取つては、に使つていた。名前を、「」といった。

□(1) 線①「たけとりの翁」の名前は何かといひますか。古文中から探して、八字で書き抜きなさい。

□(2) 線②「いふ」、④「なむ」を現代仮名遣いに直して、全てひらがなで書きなさい。

② ④

□(3) 線③「よろづのこと」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 最もよいこと
- イ わずかなこと
- ウ いろいろなこと
- エ 細かいこと

2 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

古文 むかし、男ありけり。その男、身をえうなきものに思ひなして、京にはあらし、あづまの方かたにすむべき国もとめにとてゆきけり。もとより友とする人、ひとりふたりしていきけり。道しれる人もなくて、まどひいきけり。

(伊勢物語より)

現代語訳 昔、男がいた。その男は、自分の身を(世の中の)役に立たないものだと思ひ込んで、、東国の方に(今後)住むのにふさわしい国をさがそうと思つて出かけて行つた。以前からの友だち、一人二人といつしよに行つた。道を知つている人もいなくて、さまよいながら行つた。

□(1) 線①「えうなき」、③「あづま」、⑤「まどひ」を現代仮名遣いに直して、全てひらがなで書きなさい。

① ③ ⑤

□(2) 線②「京にはあらし」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ここは京ではない
- イ 京にはない
- ウ 京にはいるまい
- エ 京に行きたくない

□(3) 線④「ゆきけり」とありますが、誰だれと行つたのですか。古文中から探し、九字で書き抜きなさい。

③ 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

古文 男もすなる日記といふものを、女もしてみむとてするなり。

ある年 書くという
その年の師走の二十日あまり一日の日の、戌の時に門出す。そのよし、
二十一日 午後八時ごろ
いささかにものに書きつく。
少し 書きつける

〔土佐日記〕より

現代語訳 男も書くという日記というものを、女の私も試してみようと思つて。ある年の師走の二十一日の午後八時ごろに門出する。そのことを少し書きつける。

□(1) 線①「いふ」、②「してみむ」を現代仮名遣いに直して、全てひらがなで書きなさい。

① [] ② []

□(2) 線③「する」のここでの意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 読む イ 行う
ウ 書く エ 見る

□(3) 線④「師走」とは何月のことですか。漢数字で書きなさい。

[] 月 []

④ 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔竹の中に女の子を見つけた翁は、家に連れて帰り、大切に育てた。〕

古文 たけとりの翁、竹を取るに、この子を見つけて後に竹取るに、節をへだてて、よごとに、黄金ある竹を見つかることかさなりぬ。かくて、翁やうやうゆたかになりゆく。

この児、やしなふほどに、すくすくと大きくなりまさる。三月ばかりになるほどに、よきほどなる人になりぬれば、髪あげなどかくして髪あげさせ、
5 装着す。
〔竹取物語〕より

現代語訳 竹取の翁が竹を取るとき、この子を見つけた後からは竹の節と節の間にある空洞に黄金が入った竹を見つかることがたびたび重なった。こうして、翁はだんだんと裕福になっていく。

この子は、育てているうちに、すくすくと大きくなってゆく。三ヶ月ほどになるころには、[] になったので、髪を結い上げる儀式などをして、装着⁵のお祝いをさせた。

〔注〕髪あげ：お下げにしていた髪の毛を大人の髪型に結い上げる儀式。

裳：成人女性の正装で、袴の上から腰にまとって身に着けた。裳を着せてお祝いすることを裳着の祝いといい、現在の成人式にあたる。

□(1) 線①「やうやう」、②「やしなふほどに」を現代仮名遣いに直して、全てひらがなで書きなさい。

① [] ② []

□(2) 線③「よきほどなる人」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 性格が良い人 イ 人並みの背丈の人
ウ 容姿が美しい人 エ 頭が良い人

[] []

演習問題 B

① 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある河のほとりに、蟻あそぶ事有りけり。俄に水かさまさりきて、かの蟻を

① さそひ流る。浮きぬ沈みぬする所に、鳩 ② こずゑよりは是を見て、^{急に水量が増えて}「あはれなる
さらって 浮いたり沈んだりしている」

ありさまかな」と、こずゑをちと食ひ切つて河の中におとしければ、蟻これに

乗つて渚に^{なきほ}あがりぬ。かかりける所に、有人、竿のさきにとりもちを付て、
^{このようになつて}

かの鳩をささんとす。蟻心に思ふやう、「ただ今の恩を送らふ物を」と思ひ、
^{その鳩を捕まえようとする} 恩に報いた

かの人の足にしかと食ひつきければ、おびへあがつて、竿をかしこに投げ捨て
^{この人は事情}

けり。其もの色や知る。しかるに、鳩是をさととりて、いづく共なく飛び去り
^{を知っていたのか(いや知るまい)} けれども

ぬ。

そのごとく、人の恩を受けたらん者は、いかさまにもその報ひをせばやと思
^{どうにかしてでも}

ふ心ざしを持つべし。

(「伊曾保物語」より)

(注) とりもち…鳥や昆虫を捕らえるための粘り気のある物質。

10

5

□(1) — 線①「さそひ流る」、②「こずゑ」を現代仮名遣いに直して、全て
ひらがなで書きなさい。

① [] ② []

□(2) — 線③「あはれなるありさまかな」とありますが、この現代語訳とし
て最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア しみじみとした様子だなあ。
- イ 興味をひかれる様子だなあ。
- ウ かわいそうな様子だなあ。
- エ 楽しそうな様子だなあ。

□(3) — 線④「人の恩を受けたらん者は、いかさまにもその報ひをせばや」
は、「だれかに恩を受けたような者は、どうにかしてでもその恩を返した
いという気持ちを持つべきだ」という現代語訳になります。これを参考
に、— 線④までの話では、A誰が「人の恩を受けたらん者」で、どうい
ったB行動が「報ひ」にあたるのか、最も適切なものを次からそれぞれ選
び、記号で答えなさい。

- A ア 蟻
- B イ 鳩
- C ウ ある人
- D ア 小枝を川の中に落としてやった
- E イ 小枝に乗ることで波打ち際へ上がった
- F ウ とりもちを使って、鳩を捕まえようとした
- G エ 人の足にかみついた

② 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

かぐや姫は求婚者たちに、自分の望む品を持参した人と結婚すると告げるが、どれも入手することは不可能なものばかりだった。くらもちの皇子がかぐや姫の元に持参した「蓬萊の玉の枝」はにせものだったが、皇子はまるで大冒険の末にそれを探し出したかのように語る。

これや我が求むる山ならむと思ひて、さすがに恐ろしくおぼえて、山のめぐり①をさしめぐらして、二三日ばかり、見歩ありくに、天人のよそほひしたる女、山②の中よりいで来て、銀の金匱かねを持ちて、水を汲み歩く。これを見て、船より下りて、「この山の名を何とか申す」と問ふ。女、答へていはく、「これは、蓬萊の山なり」と答ふ。③

船でこぎまわらせて

見て回っていると

服装をしている

の山なり」と答ふ。 [] (中略)

その山、見るに、さらに登るべきやうなし。その山のそはひらをめぐれば、世の中になき花の木ども立てり。金、銀、瑠璃色の水、山より流れいでたり。

険しいがけの下を回ってゆくと

それには、色々の玉の橋わたせり。そのあたりに照り輝く木ども立てり。

いろいろな色の玉でできた橋がかかっている

〔竹取物語〕より

(注) 金匱…金属製のお椀。

5

□(1) — 線①「思ひて」、④「よそほひ」、⑥「やうなし」を現代仮名遣いに直して、全てひらがなで書きなさい。

① [] ④ [] ⑥ []

□(2) — 線②「さすがに」、③「二三日ばかり」、⑤「さらに」のここでの意味として、最も適切なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

② 「さすがに」 ア ひどく イ やはり
ウ すぐに エ 少しずつ

③ 「二三日ばかり」 ア 二、三日だけ イ 長い間
ウ 二、三日ほど エ わずかな間

⑤ 「さらに」 ア もっと イ 普通は
ウ それほど エ 全く

② [] ③ [] ⑤ []

□(3) 古文中の [] に入る文として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア これを見るに、恐ろしきことかぎりなし。
イ これを聞くに、恐ろしきことかぎりなし。
ウ これを見るに、嬉しきことかぎりなし。
エ これを聞くに、嬉しきことかぎりなし。

[] []

故事成語(1)

ポイント

★故事成語とは…主に古代中国の昔話(故事)からできた言葉(成語)。教訓や先人の知恵を含んでいるものが多い。

例 「螢雪の功」

《故事》晋の国の車胤は、家が貧しく、明かりのための油を買いお金もなかった。そのため、螢を集めて袋に入れ、その明かりで勉強した。また、孫康も貧しかったので、窓辺の雪明かりをたよりに勉強した。二人とも、努力が実り、高級官吏となった。

《意味》苦勞して勉強に励むこと。

覚えておきたい故事成語

- ・蛇足：(蛇の絵に足を描いた人が、そのためにほうびの酒を飲めなかったという故事から) 余計な付け足し。
- ・矛盾：(矛と盾を売っていた商人が、商品を宣伝する言葉のおかしな点を見物人に指摘されたという故事から) 前後のつじつまが合わないこと。
- ・漁夫の利：(争っていたハマグリとシギが、結局両方とも漁夫に捕まってしまったという故事から) 二者の争いによって、第三者が利益を得ること。
- ・守株：(切り株につまづいたうさぎを手に入れた人が、その後もうさぎを待ち続けた故事から) 古いしきたりにとらわれること。

1 次の故事成語の□にあてはまる漢字をあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。()内はその意味です。

- (1) □故知新
(昔のことを研究して新しいことを知る。)
- (2) 背□の陣
(二歩も退かない覚悟で物事にあたる。)
- (3) □一点
(男性の中に女性が一人だけいる。)
- (4) □竜門
(立身出世の第一歩となる関門。)
- (5) 他山の□
(他人の失敗を参考に自分を磨く。)

ア 紅 イ 温 ウ 登 エ 石 オ 水

2 次の□に入る故事成語を、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 書き上げた文章は、よく□しなさい。
- (2) 工場内の事故で□な管理体制が明るみに出た。
- (3) 始めるまではあれこれ心配したが、全ては私の□であった。

ア 杜撰 イ 杞憂 ウ 圧巻 エ 推敲

3 次の故事から生まれた故事成語を、あとのア〜オから一つずつ選び、記号で答えなさい。また、その故事成語の意味を、あとのカ〜コから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 戦で、大砲の音に驚いて逃げた兵士が、自分より遠くまで逃げた兵士のことを笑った。
故事成語 □ 意味 □
- (2) 飼っている猿の餌を節約しようと交渉したが、朝夕の餌の量を入れ替えただけで、猿は喜んだ。
故事成語 □ 意味 □
- (3) 敵対視し合っていた二つの国の民が、偶然一つの乗り物に乗り合わせた。
故事成語 □ 意味 □
- (4) 妻が別れた夫のところに戻ろうとしたが、夫は、いったんこぼれた水は元には戻れない、とそれを拒んだ。
故事成語 □ 意味 □

- ア 呉越同舟 イ 朝三暮四 ウ 五十歩百歩
- エ 雲泥の差 オ 覆水盆に返らず
- カ 目先の利益に気を取られること。
- キ 仲の悪い者同士が、共に行動すること。
- ク 一度したことは、取り返しがつかないこと。
- ケ 似たり寄ったりであること。
- コ 両者の差が非常に大きいこと。